
風月孤児院(紅)

ミザキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風月孤児院（紅）

【Nコード】

N5534L

【作者名】

ミザキ

【あらすじ】

とある世界のとある所に小さな小屋がありました。

小屋の上には七色の月が光り輝いており、時によってその色をめぐるましく変えていきます。

月の色によって、その小屋の中の『幻想郷』は変わります。

これは、世界から逃げてきた少年少女達の夢物語 -

・「ムンク」は「ムンク」御楽つみトヤ。

紅い孤児院

色は匂えど
散りぬるを
我が世たれぞ常ならむ
有為の奥山
今日こえて
浅き夢見し
酔いもせず

月は夜空を照らしている。

紅く、黒く、黄色く、白く

少年は少女達に問う -

- 『幻想』の在り方を

風月孤児院、ここに開幕。

… 此処は風月孤児院。

今宵も七色の月が空に光り輝いている。

何も無い… 何処にあるかも、存在しているかどうかも解らない世界にぽつんと建っている小さな小屋…

この小屋… 風月孤児院は上空に浮かぶ月の色によって様々な世界へとその姿を変えろという…

今宵の月は…

? 『紅色』ね

1人目の訪問者がやってきた。

運命が偶然か…この小屋には迷い人が偶にやってくる。

自らの世界を失った者、あるいは滅ぼした者、自分の世界から逃げ
てきた者…

どういうわけか、此処にはそう言った人々が集うのである。

年間人数にして約1000人程度…

その少ない、世界を失った人々は、この風月孤児院で新しい世界に
向かうのだ。

上空の七色の月にその行き先を委ねて…

今日も1人… 『誰か』が幻想へと旅立った。

紅の月 - 『冴月 麟』

キャラ紹介

キャラ紹介

冴月 麟さつき りん

性別：女

種族：人間

年齢：17

身長：152cm

体重：？

欠乏：幻想

元の世界：幻想郷

武器：幻想符『花符』 『風符』

二つ名：『幻想になれなかった少女』

・幻想が欠乏している少女。

常にバイオリンを持ち歩いているが、弾くことは滅多に無い。

金髪で赤いリボンを装備している。

大分ひねくれた性格だが、根は優しい。

刻印は『QUEEN』

レミリア・スカーレット

紅魔館の主。

始祖七十七族の1つ、スカーレット家の末裔。

かつてはブラド・ツェペシュの眷属であった。

運命操作能力を持つが、本人もそれを自覚していない。

吸血鬼だけあって身体能力はずば抜けているが、太陽には弱い。大蒜は平気。流れる水を通れない。十字架も平気。大

わがままな性格だが、この小説では大分成熟している。

十六夜いざよひ 咲夜さくや

紅魔館のメイド長。

かつて外界で『ジャック・ザ・ルドビレ』の名で有名な殺し屋であった。

その卓越した殺人能力に目を付けたレミリアに半強制的に記憶と名前を書き換えられ、紅魔館のメイド兼レミリアの眷属となる。

眷属となったことで『時空操作能力』も手に入れた。

殺人ナイフ投げとタネ無し手品が得意。

主人のレミリアに対しては絶対の忠誠を誓っているが、それ以外には開けっぴろげに話す。

部下である妖精メイド達にも慕われている。

パチュリー・ノーレッジ

始祖七十七族の1つ、ノーレッジ家の末裔で、『魔法使い』

あらゆる属性魔法を使いこなす。

魔力が非常に高い反面、身体能力は低く、常に喘息を患っている。

レミリアとは幼なじみで『レミィ』『パチエ』と呼ばれ合う仲。

小声で早口。読書以外にはあまり興味を持たない。

紅 ほん
美鈴 めいりん

紅魔館の門番で、人間型の妖怪。

妖怪でありながらも殆ど妖力を持っておらず、寧ろ人間に近い存在。

かつては八極拳の有段者であった。

一応門番であるが、シエスタや太極拳をしているので意外と隙は多い。

結構人付き合いは良く、門番であるためか面識も広い。

丁寧な話し方をするが、裏表の無い性格なので嫌われにくい。

フランドール・スカーレット

レミリアの妹。

始祖七十七族ではあるものの正統後継者ではない。（レミリアが勝手に決めた）

七十七族の末裔は2人もいらなというレミリアのわがままで半強制的に地下に幽閉されてしまう。

そのため情緒不安定。並の人間や妖怪では会話することさえ難しい。

人付き合いも無いため、裏表も無い（悪い意味で）。

物質破壊能力を持っており、『目』を握り潰すことで物体を破壊する。

その実力は一説ではレミリア以上とも言われている。

幻想へ

はあ…

どうして私はこんな所に居るのだろう。

今、私の目の前には異様な光景が広がっている。

紅く薄気味悪い館…

そして…

?「ZZZ…」

その門の前で居眠りをしている女性…

運命は私に何をしろというのだろうか。

取り敢えず、目の前の女性を起こす事にする。

赤い髪に独特の衣装…

明らかに自分よりはスタイルが良いだろう。

背も高いし。

?「うーん…」

…どうやら女性が起きる気配は無さそうだ。

無理矢理起こすという手も考えたが、それは流石に悪い気がして止めた。

「…」

門は閉まっている。

となると…

「…飛ばせば良いってことでしょ」

私は深い眠りに就いている女性を後にして、飛んで門を通り抜けた。飛び方なんて最初から覚えていた。

まるで、私が最初からこの世界に居たかのようだ…

門を過ぎると庭園に出た。

チューリップ、アサガオ、スズラン、バラ…

色とりどりの花が咲いている。

私は持っていたバイオリンのケースを下に置き、しばしこの美しい

庭園で休憩することにした。

まあ、考える時間が欲しかったのだが。

1つに、何故私はこんな世界に居るのか。

2つに、此処は何処なのか。

3つに、私は何処から此処に来たのか。

3つの疑問が頭の中で渦巻いている。

考えれば考える程、疑心暗鬼に陥っていく。

髪を縛っていた赤いリボンが風に揺れた。

その時だった。

「…誰かしら？」

？「そっくり返すわ、その言葉」

振り返ると、メイドがいた。

いや、メイドかどうか定かではないが取り敢えずメイド服を着ていたのでメイドと仮定することにする。

メイドは、何故かナイフを構えていた。

メイド「まったく…中国が役に立たないのか…それとも…」

「…っ!？」

メイドがナイフを投げてきた。

丁度そのナイフは私の耳すれすれを通り過ぎた。

メイド「貴方が『違う』のかしら？」

「…そう思う？」

メイド「ええ。普通の人間が…この紅魔館に足を踏み入れるなんて有り得ない。此処はそういう所」

「へえ…じゃあ私は普通の人間じゃないんだ…」

メイド「どうかしらね…？」

メイドが怪しい微笑を浮かべる。

そのまま、私もメイドを互いを見たまま動かない。

空は曇天、館の紅い塗装が何より目立つ。

メイド「…後悔するがいわ、この紅魔館に無断で侵入した事を！」

「少しは私にも弁解できる時間が欲しいわよ…」

私はうんざりな感じで言った。

そのまま、置いてあったバイオリンのケースを拾って肩に掛ける。

メイド「行くわよ！」

Spell Card Battle!

Ready?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5534/>

風月孤児院(紅)

2010年10月10日01時34分発行